

太宰府の文化財

412

原山古図「山岳寺院」を描いた絵図

原山古図は、現在の太宰府市三条から連歌屋に広がっていた、古代から中世の山岳寺院「原山」を描いた絵図です。寸法が縦62・6cm、横70・2cm、基本的には墨で描かれ、斜面などに淡い色が塗られた紙本墨画淡彩と呼ばれるもので、江戸時代の後半に描かれたと考えられます。

山岳寺院「原山」は、これまでの発掘調査により、主要な箇所は14世紀代には衰退したと考えられることから、この絵図が描かれた時代には本堂などの建物はなく、堂舎の基壇や参道などの地形だけが残っていたようです。この地形と伝えられてきた堂舎の配置などから、建物が描かれたと考えられます。

現在、山岳寺院「原山」が広がっていた場所は、住宅地となり山岳寺院の様子を思い浮かべることが難しい状況ですが、住宅地の中に見られる段状の地形や道、池などの中には原山古図と一致する箇所が見られ、原山古図は当時の地形を現在に伝える貴重な資料となっています。

現在、太宰府市文化ふれあい館で「まると太宰府歴史展2019」を開催しています。今回の展示では、原山の近年の発掘調査の成果を紹介するとともに、「原山古図」も展示しています。展示をご覧いただき、当時の様子を感じていただけたいと思います。

文化財課 沖田 正大



令和元年8月1日撮影

原山古図（個人蔵）

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198
☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

UD
FONT
by MCHSAWA

広報だざいふ 2019.9.1 (令和元年)